

青山高校卒業式祝辞

2024年3月15日

ご紹介いただきました、青山高校同窓会 外苑会会長の長久保でございます。
同窓会を代表いたしまして、お祝いの言葉を述べさせていただきます。

皆さん、ご卒業まことにめでとうございます。
そして、ご臨席の保護者の皆様には心よりお祝い申し上げます。
また、これまで親身にご指導いただきました、永森校長ならびに教職員の皆様
には、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

卒業生の皆さんが生まれたのは2005年から2006年にかけてですね。当時を
振り返ると2007年にiPhoneが誕生しており、皆さんが物心ついたころには、
日常にスマホがあったと思います。ですからSNS ネイティブ、スマホネイティ
ブの世代と言っても差し支えありません。

そのiPhoneから20年もたたないうちに、いまや生成AIが開発され、それを
活用したChatGPTのようなコンテンツを作れるサービスが広がりを見せ、す
でにビジネスの世界では便利に活用されています。今日、青高を巣立ち、新た
なステージに進む皆さんはChatGPTに代表される新たなツールを開発したり、
あるいは大いに活用すべき世代なのです。

今回の皆さんへのお祝いの言葉を考える中、私も、試みにChatGPTを使っ
てみました。「2024年 卒業式 祝辞 同窓会長 母校」などキーワードをい
くつか入れると瞬時に「祝辞」が画面に映し出されました。使いこなせてない
こともあるのですが、ソツのない言葉が抑揚なく並ぶだけの文字列で、と
てもそのまま、皆さんにお伝えできるものではありませんでした。

言葉は心を伝えるものです。あいさつに込める、私の思いは、人生を生きて
きた中から獲得した「自分の言葉」で考えることでしか表現できません。

生成AIを活用したツールは、今後ますます進化していくことは間違いありま
せん。人間がするより効率のよい仕事は、そうしたツールにとって代わるのは
人類の進化のある種、必然です。その一方、ツールを使いこなす人間に求めら
れるのは「自分の言葉」を使って考える力をしっかりと蓄えることではないで
しょうか。

青高での3年間、皆さんは仲間とどんなコミュニケーションを交わしたでし

ようか。

歴史や文学にも積極的にアプローチして書物を読み、言葉を磨き、時には立ち止まり、ものごとの本質が何なのかを論理的に考える。そんな場面がきっとあったことと思います。そうした時間が青高生らしい、豊かな個性と独創的な発想をはぐくんだのでは、と先輩の一人として勝手に確信しています。

コミュニケーションは心の栄養です。新天地でもさまざまなコミュニケーションを愉しみましょう。技術革新のスピードが半端ではない時代だからこそ、「自分の言葉」を豊かにしていく時間を大切にしてお自身が目指す道を進んでいかれることを切に願っています。

私ども同窓会では、卒業生相互の親睦を図る事業、在校生の教育活動支援事業の2つを事業の柱として活動を展開しております。

住所を把握できている同窓生は15,000人ほどに上ります。毎年、総会・懇親会を開き、大勢の皆さんに親睦を深めていただいているほか、卒業生を講師にした交流会の開催や、同期会の開催支援、会報誌の発行など、様々な活動を行っております。

在校生支援のひとつとして、2017年にスタートさせた奨学金給付制度は、毎年6名を基本に奨学金を給付しています。

また、2019年には同窓会の活動を持続可能で透明性の高いものにするべく、法人化を実現、会の名称についても「外苑会」と改めました。

皆さんも、これからは、その一員です。昨年からは、若手の同窓生に親しみを持っていただくことを目的に、卒業したばかりの同窓生に活動に加わってもらい、公式インスタグラムの運営をはじめ、さまざまな企画を出していただき、運営を担っていただいています。一緒に青高と同窓生を盛り上げていきましょう。

この年になっても、青高でよかったと思うことは「絆」です。同級生はもちろん、先輩方や後輩たちと今も続く交流です。シンプルに「青高」という共通項だけで続く強い絆は、人生の宝物です。どうか、青高で出会った仲間とのコミュニケーションを大切にしてください。

終わりに、卒業生の皆さんのご活躍、ご臨席の皆様のご健勝をまた、青高のますますの発展をお祈り申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。本日はまことにありがとうございました。